



学校創立142周年

百年松

阿木名小中学校便り 令和4年3月18日発行

◇校訓「かしこく やさしく たくましく」
あ 明るく元気なあいさつができる子ども
ぎ りりぎりまであきらめず努力する子ども
な 仲よく笑顔いっぱいの子ども
～花いっぱい、元気いっぱい、笑顔あふれる阿木名っ子～



阿木名小中学校

少年よ 大志を抱け

校長 井上 泉

明治9年、札幌農学校の校長としてアメリカからクラーク博士が赴任しました。クラーク博士は大変立派な人でした。荒野の北海道を開拓、開墾すると同時に、日本の若者の「心の田んぼ」を耕したいというねらいもあり、博士の農学校の教育方針と信念をもって取り組みました。クラーク博士が日本を去るときに残したことが「少年よ 大志をいだけ」です。その志を継いで、札幌農学校からは、内村鑑三、新渡戸稲造など有名な人やすばらしい人が育ちました。

国や日本のためにつくし後世に名を残した人たちは、一教科や一つの技術だけにとらわれることなく、大きな志を立てて、創造性豊かな、やる気に満ちた、広くて深い勉強を、自分なりに目標を立てていたのです。

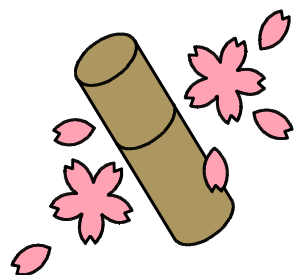
日本の初代総理大臣の伊藤博文の話です。博文は幼い頃の名前を利助といい、体が小さくて、力が弱く、青い顔をしていたので、いつもみんなから「利助のひょうたん、青びょうたん」とからかわれていました。しかし利助は誰が何と言おうと相手にせず、「豊臣秀吉を見ろ。秀吉は尾張の貧しい家の子に生まれて、顔は猿に似ていたので、みんなから猿、猿と言われていたけれど、しまいに天下を取ったじゃないか」。そう言って一生懸命勉強をしました。寂しいときや、悲し時は、紙に男の絵を描いて「豊臣秀吉」と添え書きをして、それを机の前に貼り付けて、その顔をにらみつけて「よし、おれも今にお前より立派になってみせる」と、つぶやいていたそうです。その利助がやがて見事にその目的を果たして、日本の初代総理大臣になりました。子どもたちにも目先のことだけにとらわれず、大きな希望と志をもってたくましく育てほしいと願います。

小学校6年生・中学校3年生のみなさん、卒業おめでとう。数え切れないほどの楽しかった思い出や、苦しかったこと、悩んだこと、色々思い出されることでしょう。これからは輝く未来が待っています。自分の力を信じ、精一杯頑張ってください。みなさんの活躍を祈ります。

最後に次の詩を紹介します。くじけそうなとき思い出してください。

荒野にひとり君は立ってる
行くべき道は幾つもある
だけど たどりつくべき場所は きっとただ ひとつだけ
どの道も歩いて行こうと
君は君の その人生を 受け入れて楽しむ他ない
最後には 笑えるように

日はまた昇る：浜田 省吾



卒業をむかえられた保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。これまでのさまざまな思い出が胸いっぱい広がっていることと思います。子どもたちのこれからは、さらに輝かしいものになるようご祈念申し上げます。在校生の保護者の皆様、次のステージに向かう子どもたちが、さらに活躍してくれることを信じています。

全ての保護者、地域の皆様、これまでの学校教育へのご協力・ご支援に心より感謝申し上げます。新たに始まる令和4年度にも、今まで以上にご協力・ご支援をよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。